

それは恋ですか？愛ですか？

今 井 このみ

奨励者紹介〔いまい・このみ〕

日本キリスト教団河内天美教会牧師

希望をもって喜び、苦難を耐え忍び、たゆまず祈りなさい。聖なる者たちの貧しさを自分のものとして彼らを助け、旅人をもてなすよう努めなさい。あなたがたを迫害する者のために祝福を祈りなさい。祝福を祈るのであって、呪ってはなりません。喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。互いに思いを一つにし、高ぶらず、身分の低い人々と交わりなさい。自分を賢い者とうぬぼれてはなりません。だれに対しても悪に悪を返さず、すべての人の前で善を行うように心がけなさい。できれば、せめてあなたがたは、すべての人と平和に暮らしなさい。

（ローマの信徒への手紙 12章12—18節）

昔も今も悩みは同じ

新年度が始まって、2カ月が過ぎようとしています。4月に入学や転入された方は、ドキドキやワクワクの感情がだいぶ落ち着いてきて、自分の身の落ち着けどころが決まってきたのではないのでしょうか。時間割も決まり、アルバイト先も決まり、サークルに入ろうと思っていた人はどのサークルに入部するかを決め、それぞれの活動の場での友達や先輩方の顔ぶれもわかってきた頃かと思います。2回生、3回生の方たちも、大きく環境は変わっていないかもしれませんが、ゼミが始まったり、サークルには後輩たちが入ってきたりして、時に指導やアドバイスをしなければいけない立場へと移っていった方もおられるかもしれません。新しいメンバーが入ってきた時、新しく知り合いが増えた時、私たちは人間関係に悩むことがあります。ウマが合う人ばかりであれば悩むことはないのですが、そうではないのが現実です。正論を言っているはずなのに、理解してくれない。規則や約束事を守ってくれない。会議やミーティングで何かを決めなければならない時に、必ず反対意見を言ってくる人がいて、決まりそうだった議案がいつも振り出しに戻ってしまう。イライラしてしまったり、しまいには「○○さんがいなければ、スムーズにことが進むのにな」と思ってしまう。

恋愛も人間関係の悩みの一つです。これだけ好きな気持ちが強いのに、なかなか両思いになれない。付き合えたとしても、何故かいつも不安を抱えていたり、良い関係が続かなくて別れてしまったり…。相手はいるけれど、ふとした時に「私って本当にこの人のこと好きなのかな？」と何故かそんなことを考えている。

このように、私たちは、自分の将来についても悩むことがありますが、人間関係についての悩みも頻繁にもつものです。

それは、昔の人も今を生きている人も変わりません。昔から、私たち人間は人間関係に頭を悩ませてきました。このローマの信徒への手紙も、教会内でいろいろ問題が起こり、それを少しでも解決できるようにと

パウロが手紙を書いて勧告しています。聖書は私たちが抱えるどんな悩みにも、「こうじゃない?」とか「こうしてみたら?」と問いかけてくれます。今回の人間関係の悩みについても聖書は応(こた)えてくれるはずです。その問いかけの言葉が、「たゆまず祈りなさい」「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」という言葉です。祈り続けること。喜んでいる人と一緒に喜ぶこと。泣いている人と一緒に泣くこと。普通のことで特別なことが書いてあるように思わない方もおられるかもしれません。

でも、喜んでいる人や泣いている人が自分を悩ませている相手だとしたら、一緒に喜んだり泣いたりできるでしょうか。今日の聖書箇所には、「一緒に喜んだり泣いたりするのは、あなたと仲良しの人とやりなさい」とはありません。この言葉の直前には、「あなたがたを迫害する者のために祝福を祈りなさい」とありますから、むしろ自分を苦しめている人が喜んだり泣いていたりしたら、その場に行き、なぜ喜んでいるのか、なぜ泣いているのかを理解して、感情を共にしなさい、と言っているのです。

と言っても、自分を悩ませている相手を理解しようとする姿勢をもつことが大変なのかもしれません。頭にきている場合は特に、相手の立場になって考えることは困難です。

恋と愛の違い

よく「恋は下心、愛は真心」と言われます。最近、この言葉はあながち間違いではないのかもしれない、と考えています。「恋は下心」の「下心」にあまり良い印象を抱かないことでしょう。何か企んでいるような感じがですね。「〇〇したいから、こうしてやろう」。そんなイメージでしょうか。でも、恋ってそういうものなのです。というのも恋の漢字、昔は心の上が糸2つ。その糸の間に言と書いたのだそうです。もつれた糸にけじめをつけようとしても、簡単に分けられないこと。それに、心がついていることから、「心がさまざまに乱れて思い切りがつかないこと」。その状態を表した漢字なのです。ですから心が乱れてしまって整理がつかない。思いばかりが走ってしまって自分の行動を抑制できない。恋は、そういうものなのかもしれません。だから、「恋は下心」。自分の思いばかりを優先してしまって、相手のことを大切にできないのです。

一方、「愛は真心」と言われます。愛という漢字は、愛おいしい気持ちで胸が詰まって後ろにのけぞったさま、を表しているのだそうです。恋とは違って、後ろにのけぞっているのが、自分の気持ちばかりが前に進むことはないのです。相手のことが愛おしくて、大切に・・・。「自分のことよりも、相手がどう思うか。どう感じるか」が先に出るのです。みなさんが今しているのは恋ですか?それとも愛でしょうか?昔していたのは恋でしたか?愛でしたか?

恋と愛の違いの例について、よくこういうことを聞きます。18時に待ち合わせをしていたけれど、付き合っている相手が待ち合わせの時間を10分まわっても来ない。携帯を見てみても、着信もメールもきていない。連絡がないから、自分から電話やメールで連絡をとってみるも、なかなかつながらない。その時に「なんで、遅れるなり都合が悪くなったりしたなら、連絡くれないかな?せっかく、予定空けて、今日は一緒に出掛けられると思って、〇〇したのに」と怒るのが恋なのだそうです。反対に、「変だな。どうしたのかな?まさか、事故にでもあったのかな?」と心配するのが愛なのだそうです。これは譬えなので、普段の相手が約束をきちんと守る人かどうかによって、こちら側の気持ちのもちようも変わってくるような気もしますが、この譬えで言いたいのはおそらく「せっかく〇〇したのに」と自分の思い通りにいかなかった、自分の

気持ちが満たされなかったことが真っ先に出てきて怒るのか。もし、そうならば、それは恋で下心があるのではないですか?ということなのです。

恋と愛の違いについて説明しましたが、これは恋愛対象だけの話ではなくて、冒頭でお話したゼミやサークル、アルバイト先の人間関係についても同じことが言えるはずです。苦手な相手、なかなか手を取り合えない相手がいる場合、避けられる場合はよいかもしれませんが、中には、避けなければいけない場合もありますが、ただ単に、自分と合わないだけで苦手意識をもっている場合。いつまでも、あなたは、避け続けたままですか?また、今自分がしているのは愛ではなく恋だと気づいた時、恋のままでいきますか?

パウロの変化

今日の聖書箇所を書いたパウロという人は、昔は「愛ある人」とは言い難い方でした。「規則は規則だ。あなたは規則を破っているから、処分する」、そういったタイプです。筋は通っている人と言えるかもしれませんが、なぜ相手は規則を破ってしまったのか。その背景まで読み取ろうとするような、相手を考える人ではなかったのです。けれども、イエスさまに出会ってから、彼は変わっていったのです。自分のことよりも、自分の周りにいる仲間を大事に思い、その人のために手紙をしたためる。そんなことができるような人へと少しずつ努力をして変わっていったのです。

みなさんも一歩踏み出して、「愛」をもてる自分に近づいてみてはどうでしょうか?自分を悩ませている相手、苦手な相手の立場になって考える・・・とても難しいことのように思えます。今日の聖書箇所には「苦難を耐え忍び」とあります。正直に言って、嫌な相手の立場になって相手の気持ちを考えることは苦難です。自分のいろいろな感情に耐える必要があります。でも、いきなりではなく、少しずつであればできるかもしれません。その一歩は、そんなに難しいことではないのです。

愛ある人になるために

今日、何度も口にした「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」。「愛」を説明するとしたら、この言葉に要約されていると言えます。この言葉には「共に」という単語が入っており、「メタ」というギリシャ語がこの「共に」に当てられています。「メタ」は同伴や同行を表す単語です。初めから相手の心の中を察して一緒に喜んだり泣けなくてもいい。まずは、相手と同行すること。相手が喜んでいたり泣いていたりしたら、そこまで行って空間を共にすること。そこから、「愛」ある自分への始まりとなるのです。

今日の聖書箇所は初めから終わりまで、「相手が〇〇するから、それまで待っていきましょう。必ず、神さまがあなたの願いを叶えてくれるから諦めないでね」という言葉ではありません。「あなたが、〇〇しなさい」という勧めの言葉です。愛は、相手を変えることではありません。自分から変えていかなければならないのです。「あなたは恋多き人ね」と言われるのではなく「あなたは愛ある人ね」と言われる自分へと成長していきましょう。そして、「愛ある人へととなりますように」と祈り続けていきましょう。

2016年5月25日 京田辺水曜チャペル・アワー「奨励」記録